

今から ここから まなざし

糸魚川地区保護司会

第18号

世界ジオパークのまち 糸魚川



糸魚川ジオパーク
マスコットキャラクター
ジオまる



糸魚川ジオパーク
マスコットキャラクター
ぬーな

学校と地域の連携を推進

“社会を明るくする運動”で市内中学校の校門前にて早朝あいさつ運動を展開



社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

7月は“社会を明るくする運動”
強調月間・再犯防止啓発月間です。

7月は“社会を明るくする運動”の強調月間です。糸魚川地区保護司会・更生保護女性会では、今年度初めて市内の能生・糸魚川東・糸魚川・青海中学校において早朝の登校時間に合わせ、校門前での「あいさつ運動」を展開しました。

- ※実施日 能生中学校 7/8,9,10
- 糸魚川東中学校 7/8,9,10,11
- 糸魚川中学校 7/2,3,4
- 青海中学校 7/3,4,5

一人ひとりが参加する、犯罪や非行のない地域づくりはとても大切なことです。



糸魚川東中学校



糸魚川中学校



能生中学校



青海中学校

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

第69回 “社会を明るくする運動” 発進式を開催



参加した保護司・更生保護女性会の面々

法務省が主唱する“社会を明るくする運動”強調月間が7月一か月間にわたり、全国一斉に実施されました。

糸魚川地区保護司会では、7月1日糸魚川市役所において保護司、更生保護女性会約40名が参加して、発進式を開催しました。会場には、糸魚川市の井川賢一教育長、中村昭警察署長、高瀬衛協力雇用主会長も参加し、激励をいただきました。

また、冒頭上野文嗣保護司会長より安倍晋三内閣総理大臣のメッセージが読み上げられ、井川賢一教育長へ伝達されました。

そして、能生・糸魚川・青海分区の代表が“あいさつは、思いやりの心”宣言



“あいさつは、思いやりの心”宣言

“あいさつは、思いやりの心”宣言を読み上げ、明るい地域社会実現に向けて力強く呼びかけました。



発進式であいさつする上野文嗣会長



安倍晋三内閣総理大臣メッセージを井川賢一教育長へ伝達

“社会を明るくする運動”強調月間の能生・糸魚川・青海分区の活動スナップ



社会を明るくする運動啓発グッズの配布 祇園祭り(糸魚川分区)



ショッピングセンター前の街頭啓発活動(糸魚川分区)



PR活動に能生中学校生徒も応援 小泊ほたる祭り会場(能生分区)



おのみ祭り会場でのPR活動 参加スタッフの皆さん(青海分区)



内閣総理大臣メッセージを土田昭一能生事務所長へ伝達(能生分区)

おおさわの里を訪問 能生分区 海洋高校相撲部の模範演技披露・車イス磨き・入所者激励

能生分区では7月15日“社会を明るくする運動”の一環として能生地区更生保護女性会そして海洋高校相撲部の皆さんと「特別養護老人ホームおおさわの里」を訪問し、車イス磨きなどの社会貢献活動を実施しました。



相撲部の皆さんの模範演技

会場では、特設の土俵が設置されて、入所者の目の前で、数々の模範演技の取組が行われました。会場の皆さんは初めての体験であり、驚きと感動の連続でありました。



各部屋を訪問激励

また、相撲部員は入所者の各部屋を訪問し、一人ひとりに激励の握手を行いました。



車イス磨き
能生地区更生保護女性会の皆さんと

そして、施設の必需品となっている「車イス」の清掃活動を相撲部員・更生保護女性会と合同で行い、慰問、奉仕活動の一日を終えました。

交流研修会



交流を深めた梅池自然園の見学

小谷村保護司会と懇談

毎年、実施されている小谷村保護司会との交流研修会が7月22日小谷村を会場に開催されました。当日は、保護司・更生保護女性会役員合わせて40名が参加し日頃の活動状況等、お互いの情報交換で、一日有意義な交流研修会となりました。

視察研修

喜連川社会復帰促進センター(栃木県)



センター正面玄関前的一枚

10月17日、栃木県の喜連川社会復帰促進センターを視察しました。

収容定員は2,000名。職員240名、民間職員170名で「施設の警備・医療・社会復帰促進等」東日本で唯一の官民協同の運営を行っています。

更生保護今・昔

9



大島 昌枝

つながる更生保護

元号が令和に変わったこの年に、更生保護制度施行七十周年を迎え、新たな一歩を踏み出そうとしています。明治に生まれ、大正に進展を経て昭和に制度として確立し、平成に制定された更生保護法の下で更なる発展を遂げてきております。

その間、当保護司会も大きな動きがみられました。待望だった会報誌「まなざし」が平成二十年に発行され、その三年後には協力雇用主会が設立されました。ちよつとしたボタンの掛け違い、ちよつとした心のゆるみ、ちよつとした友からの誘い等から犯罪や非行に走ってしまったひと達がその罪を償い更生を決心しても、現実の社会にはきびしいものがあります。きちんとした仕事について経済的に自立し、再犯を重ねないで済む地域づくりが重要です。

そんなことを願っていたことから、この会が設立した際は大きなよろこびでした。設立されるまでの二年間は大変でした。市内企業・雇用主の方々・法人会・商工会議所・社協のみなさんのところに何度も足を運びご理解とご尽力をいただきましたことに、今更ながら心から感謝いたしております。併せて懐かしい思い出です。サポートセンターの設置で対象者との対応も改善されてきたとお聞きしていますが、犯罪や非行をした人たちが地域で孤立することなく、再び社会を構成する一員となることのできる地域をめざして、誰ひとり取り残さない社会の実現に向け、更生保護への期待を高めていきたいと願うばかりです。

あいさつからはじめよう



糸魚川市立糸魚川小学校 六年

木島 颯希

私が考えている「明るい社会」は、みんなが笑顔で、安心して暮らせる社会だ。

しかし、現実には、私が考える「明るい社会」にはなっていない。殺人・虐待・飲酒運転などのニュースが連日報道されている。自分には関係がないと思いたいが、犯罪が日常的に起きてしまっている社会で、自分がいつ被害者や加害者になってしまうかわからない。私の周りの身近な人でも知らない人は「他人」となってしまっている。声をかけることすらしない。自分勝手な思いで「不審者」とさわぎたてる人もいる。私の周りの身近な人へ私から積極的にあいさつをすることにより安心して暮らせる社会になっていくと思う。

六年生になり、一時期、早朝マラソンを始めた。自宅から学校まで行き、学校周辺の約三十分のコースを走っていた。走っているとパン屋さんから香るパンを焼いているにおいがとてもいい。学校周辺を走っていると庭で水やりをしているおじさんがいる。走りながら、

「おはようございます。」

と、私から元気にあいさつをすると、おじさんもあいさつを返してくれる。毎日走っているとおじさんは私にあじさいの花を「輪くれた。」

「ありがとうございます。」

と、あじさいを頂いた。また、店のベンチの前ではいつも大工さんのような人が三人、おしゃべりをしている。その前を走って通る時、

「おはようございます。」

と、あいさつをすると、あいさつが返ってくる。頭をさげられたり、手をあげてくれたり、何かしら私のことを気にかけてくれる。早朝マラソンで今まで知らなかった人とどんどんあいさつを交わし関わりが生まれ、地域の人を知っている人に変わっていった。このあいさつから思いやる心・思いやる言葉・思いやる行動・思いやる環境が生まれていくのだと感じた。自分から社会を良くしていこうと考えマラソンを始めたわけではなかったが、マラソンをすることで気がついた。私の関わりの中に地域の人がいる。いつも見ていてくれる。それがとても守られているかのようにありがたく感じた。

自分と自分以外が存在するところには社会があり、生きていくためのきまりやルールが存在する。私たちは一人で生きていくわけではない。たくさんの人たちといろいろな関係を持ち生活している。そこには、良いこともあるし、悪いこともある。いろいろな人が生活する社会の中では、自分以外の人たちと必ずしも良い関係が築けているとは限らない。ちょっとしたことから生じる感情のすれ違いや誤解などからまさつが生まれ、自分の気持ちに余裕がなくなり、他の人たちとの関係がめんどうだと感じてしまいい、ついには社会のきまりやルールからはみ出した行動をしてしまうことがある。私は一人ひとりが今できる受け入れ方をするのが大切だと考える。私や地域の人が今できること、今やっていることが大切だと思う。非行や犯罪から立ち直ろうとしている人にも周りの人たちの支えが必要だと考える。何も大きなことを始めていこうと思わなくてもいい。地域の人を思いやる心を自然と出していこう。自分が困っていたら誰か助けてほしいと思う、自分以外の人が困っていたら助けてあげたいと思う、こんなかんじからでいい。思いやる言葉を自然と伝えていこう。きっとみんなの心がつながるよ。

糸魚川地区更生保護女性会



おめでとうございます

法務大臣感謝状

大島昌枝さん

結成65周年新潟県更生保護女性の集い



糸魚川小唄で

ミニ集会



- ＊思いやりの心をもって活動します。
- ＊社会を明るくする運動に参加します。
- ＊過ちを犯した人の立ち直りを支援します。
- ＊女性の持つあたたかさ、こまやかさを生かして活動します。

会員研修



ひすいの里総合学校
長谷川教頭先生の講話

更女の日



お問い合わせ

糸魚川地区更生保護女性会事務局(糸魚川市社会福祉協議会内)
電話 025-552-7700

糸魚川地区BBS会

“あいさつ運動”に参加

再発足して6年目になりました。組織体制づくりはまだ十分といかないまでも毎年恒例となっています。“社会を明るくする運動”の一環で、本年度より新たに始まりました「あいさつ運動」に参加しました。

7月8日(月)能生中学校を訪問し全校集会に出席しました。保護司会を中心に、更生保護女性会、協力雇用主会と私たちBBS会の関連4団体で「あいさつ運動」の趣旨説明を行いました。

“あいさつは、思いやりの心”宣言では、生徒さんより内容がよく分かったとの感想をいただき更生保護の理解をひろげられたと考えました。

本会はまだまだ未熟ではありますが、来年度以降も“社会を明るくする運動”などの活動に参加し、安全で安心な地域づくりに貢献していきたいと考えています。

(会長 加藤雅志)



能生中学校全校集会に参加
“あいさつは思いやりの心”宣言を呼びかけ

糸魚川市更生保護協力雇用主会

なんとかしなければ

毎年の研修会等で各所の刑務所などを視察していますが、それぞれの刑務所で異口同音に聞く言葉が「刑務所が満杯状態なのに、出所した受刑者の約7割が再び刑務所に戻って来てしまう。」というものでした。



更生保護協力雇用主会 会長
高瀬 衛さん

私ども協力雇用主に名を連ねている事業者としても、「出所者の生活を確保することが再犯を防止することにつながる。」ということ聞く度に、この問題をなんとかしなければという思いでいますが、実際の雇用に結びつくことは希なのが現状です。

その原因としては様々考えられるわけですが、その中の大きな要因として、再犯をしてしまう人に多く見られる仕事に対する基本的なモラル、約束の時間を守る、無断欠勤はしないなどについての意識の欠如にあるように思われます。

世間に多く存在する使われなくなった建物・施設を利用し、出所者の再教育する場とすることも一案かと思えます。いづれにしても、官民挙げて協力し知恵を出し合っ て行かなければならないことであろうと思えます。

更生保護事業功労者

第66回新潟県更生保護大会(新潟市 新潟テルサで開催)で永年の功労により13名(家族功労、内助功労含む)の方々が表彰されました。

全国保護司連盟理事長表彰



五十嵐須磨子さん



小野敏明さん



表彰を受ける五十嵐須磨子保護司と小野敏明保護司

更生保護制度施行70周年 記念全国大会に参加して

五十嵐須磨子

さる10月7日東京フォーラムに於いて、天皇・皇后両陛下、内閣総理大臣、衆参両院議長ほかご臨席の下、全国津々浦々から5,000名もの更生保護関係者が集い、更生保護制度施行70周年記念全国大会が挙行されました。

そこで「世界一安全な国、日本」安全で安心な誰一人取り残さない社会の実現に寄与していくことを宣言しました。

後半では、犯罪や非行をした人たちが地域で孤立することなく、再び社会を構成する一因となる社会の実現に向け、「広がり、つながる更生保護」をテーマとして、シンポジウムが行われました。保護司・更生保護女性会・BBS会員等のパネリストから具体的な実践例を踏まえた発表があり、改めて更生保護に課せられた責務の重大さと各機関や関係組織との連携の大切さを深く認識いたしました。

私事ですが、この記念の年に全国保護司連盟理事長表彰を受彰できたことは、関係各位のご指導・ご協力および家族の理解と協力のお陰であり、心より感謝いたしております。

健康で社会貢献ができることに喜びを抱きつつ、ボランティア活動に微力ながら力を尽くして参りたいと存じます。

退任あいさつ

小澤義晃



昨年、9月末をもって退任いたしました。

在任14年間の印象的な出来事としては、更生保護制度が大きく変革したことです。

裁判員裁判制度が確立され、保護観察が再犯防止に有効であることが再認識されたこと。また、刑の一部執行猶予制度では、立ち直りを施設内だけでなく、地域社会で支える制度へと変革しました。それに伴い、保護司の責務

がより重要となりました。

また、就労確保のため協力雇用主会の立ち上げから発足まで、保護司会一丸となって取り組んだことも大きな思い出です。

受け持った対象者は、窃盗・恐喝・覚醒剤等様々でした。十代で4年近く受け持った青年は紆余曲折がありました。しかし今では他県で真面目に働き、責任ある立場に就き、近々家庭を持ちたいと、誇らしげに近況報告方々度々訪れます。保護司をしていて良かったと思える出来事です。

保護司の仕事を通じ、多くの方々と知り合うことができたことも幸いでした。ありがとうございました。

糸魚川地区保護司会名簿

●糸魚川分区

上野 文嗣	岩崎 茂
小林 桂子	渡邊 せつ
松木 エツ子	山本 明美
清水 英基	吉原 喜久雄
牧江 由郎	藤田 英志
大瀬 信雄	金子 栄一
小柳 学	加藤 洋子
後藤 純悟	谷口 一之
大西 純	齋藤 隆一

●能生分区

池田 一雄	五十嵐須磨子
池亀 逸男	伊藤 一夫
中村 浩	大久保利勝
久保田一男	小林 忠
滝川美和子	高野 章子

●青海分区

小野 敏明	安藤 都
渡邊 順哲	大津 康則
解良 則一	伊藤 きよえ

編集後記

何気ない午後、道路脇の畑で草取りをしていると、下校の子どもたちが「こんにちは」と声をかけ通って行きます。「おかえり」とあいさつを返しながら目をやると、おしゃべりをしながらニコニコとずいぶん楽しそうです。こんな純粋な子どもたちが些細なきっかけで犯罪に陥ってしまうこともあるのかもしれませんが。あいさつ運動は心と心をつなぐ第一歩、いじめや虐待のない明るい社会を願って未来ある子どもたちを地域で見守り育てていかなくてはと強く感じたひと時でした。(滝川)